

## 令和2年度 海の森づくり推進協会事業報告書

### 堀田 健治

令和2年はコロナ禍の影響により、例年6月に開催されるシンポジウムをはじめサハリン視察旅行等計画された多くの事業が中止となった。本年は役員改選の年に当たり、松田会長の辞任表明、その他理事の辞任申し出等を受けながら、規約の改正並びに新たな理事候補者の推薦依頼の手続きの後、新理事による会長選挙が行われた。

新会長として堀田健治理事、新たに設けられた副会長職に、広海十朗理事、門脇秀策理事の2名が就任し、事務局長に大野正夫理事、また、会長、副会長、事務局長を含み、原口博光理事、白石展子理事による幹事会が結成され、原口理事が幹事長長となった。なお、松田恵明全会長が名誉会長に承認された。加えて、新たに協会の顧問に原田義昭先生（前環境大臣）、義家弘介先生（前文科省副大臣）が就任された。

新体制移行へは、引き続きコロナ禍のために、この準備と作業は事務局を中心にメールを主体とする作業により進められ、スムーズに行われ、大野事務局長はじめ理事の皆さんに感謝申し上げます。

新体制では、足元を充実させるということから、会員同士の交流や、会員サービスの向上に努めるという意味からもホームページを充実させることや、新しい研究会の立ち上げ、その他会員同士のビジネス連携に結び付けられる交流や活動を目指すことをお願いした。

昨年はコロナで、ほとんどの計画が中止や遅れたこともあり、事業計画作成にめども立たないまま期末を迎えた。以下、規約にある事業項目を参考にしながら令和2年度の活動を報告する。

#### 1. 種糸支援事業

海藻を増やすという意味からも、コンブ、ワカメの種糸を普及させることは協会にとって、大きな目的の一つである。種糸事業では、例年北海道と青森産の種糸を手配していたが、温暖化のためか、水温が下がらず、今年は青森産のコンブのみとなった。コンブ種糸出荷量については、東北海域から鹿児島、長崎まで、19件で、3,850m。ワカメについてはこれも温暖化により配布が送れたために東北からの注文には対応できず、例年の半分、7件で23枠のであった。

#### 2. ニュースレターの発行、ホームページの充実

本年度はシンポジウムが中止となったため、直接情報交流を行う機会はなかったものの、ニュースレター、通巻19号が発行され、内容は極めて多岐にわたる記事が寄せられ、この1年間の活動の総括ともいえるべきものとなっている。

項目を上げてみても、1) 紅藻キリンサイ液肥の肥効果、2) 函館産、天然真コンブをめぐる最近事情、3) サハリンの昆布事情、4) 洋上風力発電と漁業協調型海洋牧

場構想、5) 動植物による陸上版 SDGs 複合エコ養殖のすすめ、6) アカモク産業の現状、7) アカモク研究会報告、8) 「ブルーカーボン時代」本協会からの要望について諸官庁からの回答が紹介されているが、地道な努力が必要であり、継続していくことが大切となっている。以上、総じて内外に発信できる情報が詰まったニュースレターとなった。

一方、新体制では山崎理事が IT 担当理事となったことから、ホームページの充実が図られた。ホームページ訪問数を示すカウンターは 3 万人を超え、1 か月で時に 1000 人近いアクセスもあった。「新着情報」のコーナーでは、定期的に会員から興味深い情報が寄せられた。

協会が 2002 年に設立されてから、20 年になるが、設立以前お活動も含めて、協会史を残すことの重要性から、松田名誉会長に執筆お願いした。また、既に物故されたが、広い意味から我が国の海藻研究に尽力され、また協会に関わった先人について、大野事務局長が「海藻産業に貢献されて来た方々を想う」のコーナーで紹介していただいた。先人の功績は大きく、次世代に継承し残していく意味でも極めて意義深い企画であった。その他大野正男資料集についても、ややもすると逸散してしまう貴重な資料をここに集め、公開している。その他「寄稿紹介」や「出版案内」など充実したものとなった。

### 3. 研究会報告

#### 1) アカモク研究会

昨年引き続き、千葉県南房総市東安房漁協地先においてコンブ育成事業が行われた。1 月 13 日と 19 日と 2 回にわたり、コンブ種糸装着作業を行った。その後 2 月末になり、漁協より育成が悪いとの報告があり、原因を調査。今年は水温が例年になく高くそれが原因ではないかと大野先生、松岡さんからお話、そこで急遽、お二人の先生に依頼し、高知と、徳島より追加種糸を送ってもらい、3 月 16 日水深をやや深めにして再設置。4 月になり調査したところ、生育し始めたがすでに生育の勢いは見られない。4 月 27 日。収穫を行った。例年の 1/30 にも満たなかった。水温にもよるが来年はやや早めの投入することなど、課題を残した。収穫したものは漁協の冷凍庫で保管していただき、合わせて、灰干しコンブの試作を行ったところきわめて良好で美味な仕上がりととなった。

アカモクについては、富津竹岡に依頼していた海藻 120 kg を収穫。来年は、漁協も手伝いさらに収穫してくれるとのことであった。これ等はジェレに加工され冷凍保存され、試食用に配布された。

また、オゴのりも上がり、コンブ、オゴのり、アカモクとそれぞれ、当日の参加者により料理された（ホームページに掲載斎藤理事）。

## 2) 複合エコ養殖研究会

本年度、海面・陸上でSDGs全項目を対象として。特に、SDG12「つくる責任つかう責任」、SDG13「気候変動に具体的な対策を」、SDG14「海の豊かさを守ろう」の目標を達成すべく、共に課題解決できる情報交換と実践活動をするを目的として「複合エコ養殖SDGs研究会」が新たに発足した。複合エコ養殖とは、養魚に伴う糞・尿や残餌を循環して、海藻類（コンブ・ワカメ・アカモク・アオサ）や貝類（アワビ類・ウニ）、底生生物（ナマコ・エビ）を共生させて養殖する形態のことである。

## プロジェクト

### 洋上風力発電と漁業協調型海洋牧場構想

協会では、会員である朝日テックが開発した、ハイブリッド型リーフボウルを藻礁として用いる開発に関わりながら、実証実験を行ってきたが、12月、東京ビックサイトで行われた、第15回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラムで構想をさらに広げ、海洋風力発電施設建設と連携するための構想として、漁業協調型海洋牧場構想として位置づけることにより、会員をはじめ多くの人に関われることが期待されるプロジェクトとして進んでいる。現在九州を中心とした複数海域で実証実験が進んでおり良い効果が出ている。今後、試験投入を希望する場合は、長崎支部長池田修さんに連絡してほしい。

### 長崎支部設立

秋田支部に引き続き、本年1月、長崎支部（支部長 池田修 朝日テック株式会社）が設立が承認された（支部長 池田修 朝日テック株式会社）。これに伴い、昨年9月、長崎未来フォーラム、1月佐賀未来フォーラム、3月宮崎未来フォーラム、5月には鹿児島未来フォーラムで協会が後援団体となって、池田支部長、はじめ、大野先生、堀田先生、門脇先生等がリーフボウルの活用等に関する講演を行った。

その他、以前富山で松田先生がコンブ育成に関わった経緯から、富山テレビ「中島流深堀 TOYAMA」の番組（1月27日放送）で、海の森づくり推進協会の活動の紹介と海の温暖化での課題について堀田会長が出演。

以上、規約には活動目的について記載されているが、本年、非常時の折、必ずしもすべてについて活動できたわけではなかった。しかしながら、ニュースレターの集約されるように、おおむねこの目的は達成され、結果会員増強に大いにつながったと思われる。役員はじめ会員各位の努力とご理解のおかげであり感謝したい。

会長 堀田健治